少年センターだより

令和２年３月７日
発　　行
日野町少年センター
日野町河原１丁目１番地
TEL/FAX　0748-53-1325
http://www.rmc.ne.jp/h.g-s.c/

「地域の温かい励ましを支えに」

桜谷小学校
校長　北﨑　あゆみ

「ほっとけんたいさんに はっぴをきせてもらって きねで おもちをつきました。おもちつきは たのしかったです。」

これは、「新春もちつき大会」の思い出を綴った一年生の子どもの作文です。はっぴに袖を通して照れくさそうな、それでいて張り切っている子どもの顔が浮かんできます。

「Ｈｏｔけん隊さん」というのは、日常的に協力いただいている地域の学校応援団です。本校では「Ｈｏｔけん桜谷隊」を初めとする地域の皆様に惜しみないご支援をいただいているおかげで、地域学習や栽培活動などの貴重な体験をさせていただくことができます。裏山の整備など、学校だけではできない仕事にも力を貸してくださっています。

今年度の「地域ふれあいＤＡＹ」では、「地域の名人さんに弟子入りしよう」という活動を設定しました。初めての企画でしたが、「子どものために」と快く講師を引き受けてくださる方が多く、感激しました。一、二年生は昔遊びを、三年生以上は「竹とんぼ作り」「ティッシュケース作り」「木の実の工作」「防災ブレスレット作り」「絵手紙」「紫外線で光るブレスレット」「世界の音楽」「手品の秘伝」を教えていただきました。直接ふれ合うことを通して、子どもたちは、地域の方から大切に思っていただいていることを肌で感じることができたのではないかと思います。地域の方の技を生き生きと見つめる子どもの顔と、優しいまなざしで子どもを見守る名人さんの顔が印象的で、桜谷小学校の宝物がまたひとつ増えたと感じました。

このようなお世話になった地域の皆様に感謝の気持ちを伝えるため、「森のレストラン」という行事をおこないました。十分なお礼にはなりませんが、全校児童全員で心をこめて準備をし、裏山で手作りのお味噌汁や炊き込みご飯を召し上がっていただきました。

今後も、地域の励ましを支えに、一人ひとりの子どものよさを伸ばすことのできる教育活動を展開していきたいと考えています。

Hot けん桜谷隊との新春お餅つき大会

脳が薬物で壊される！ 薬物乱用防止教室開催

町内の各小学校６年生を対象に、東近江警察署、日野ライオンズクラブの協力をいただき、薬物乱用防止教室を開催しました。薬物乱用がどんなにいけない事なのか写真や、DVD 等を使って学習しました。そして、子ども達から次のような感想が寄せられました。

薬物を使うと脳がおかされ、はかいされてしまう。なおったと思っていても、フラッシュバックしてしまうことがわかりました。でも一番おどろいたのは、カゼを治す薬も飲みすぎると毒になることです。　（桜谷小学校）

大麻などの薬物のことは知ってたけど、どのような害があるのかまでは知らなかったので良かったです。「伝える勇気」「ことわる、逃げる勇気」は大切だと思ったので、私もそれができるようにしたいと思います。　（南比都佐小学校）

今日の薬物教室で、薬は全部けがや病気を治すだけだと思っていたけど薬の中にはきけんな薬があることが分かった。危険ドラッグなどを１回でもすると脳に害をおよぼし、やめられなくなることも分かった。最近はぼくたちなど小さい人もケイタイを持ってネットなどであまいことばにだまされてしまうので気をつけたいです。　（桜谷小学校）

子育て小窓

はじめて学校で授業を受けた時、いろいろな感情が渦巻きながらも、期待に胸を膨らませていたのではないでしょうか。いつまでも、その気持ちが続けば…と思うのですが、中々うまくはいかないものです。

何かを新しく始めるということには、できないことができるようになる喜びが有ります。だからこそ、学ぶことは楽しいのでしょう。しかし、それは同時に、未知の世界に飛び込んでいくということでもあります。未知の世界は、不安や恐れの対象でもあります。思いきって挑戦してみたのに、何回やってもうまくいかず、続けることをためらってしまう。そうした経験は、誰しも多かれ少なかれあるのではないでしょうか。そんな時、頑張って挑み続けることも大切なのかもしれません。しかし、ためらいや不安が生じた時には、一旦立ち止まって休んだりエネルギーを溜め込んだりする時間を作る。それもまた大切なことのように思います。

相談をしていると、多くの大人たちは「頑張って挑み続けること」を求め、子どもたちは「叱咤激励され続け」、そして双方共に疲弊しているケースがとても多いのです。

ただ走り続けることではなく、ひと休みしてエネルギーを補充してから走り“始め”続けること。それが頑張ることのコツかもしれませんね。

日野町子育て・教育相談センター　N

ネットには 危険もいっぱい

ネットで簡単に薬物が手に入る時代です。危険ドラッグを合法ハーブ・合法アロマ等と称する製品で販売するホームページも存在しています。また、京都の中学生がネットで大麻を入手したり、小学生が大麻を使用したという事例もあります。

薬物乱用を誘われても「ダメ。ゼッタイ。」と断る勇気を持ちましょう。

東近江警察署管内の少年非行のあらまし

２０１９年中に東近江警察署で検挙・補導された少年の概要は次の通りです。（東近江警察署生活安全課統計資料より）

【少年の検挙･補導状況】

		2019年	2018年	前年比
刑法犯少年	犯罪少年	22	30	▼ −8
	うち女子	2	3	▼ −1
	触法少年	9	18	▼ −9
	うち女子	0	2	▼ −2
	小　計	31	48	▼ −17
	うち女子	2	5	▼ −3
特別法犯少年		8	6	△ 2
	うち女子	0	1	▼ −1
不良行為少年		225	160	△ 65
	うち女子	35	27	△ 8
合　計		264	214	△ 50
	うち女子	37	33	△ 4

刑法犯で検挙・補導された少年は３１人で、前年に比べて１７人減少しています。しかし、不良行為少年は２２５人で前年に比べ、６５人増加しています。行為別では、深夜徘徊が最も多く１２６人、次いで喫煙が７２人となっています。日頃から子ども達が深夜徘徊（午後１１時から午前５時までの徘徊）や喫煙等をしないよう家庭や地域で見守っていきましょう。

刑法犯少年とは・・・１４歳以上２０歳未満の少年で罪を犯した者（犯罪少年）と刑事責任のない１４歳未満の少年で、刑罰法令に触れる行為をしたもの（触法少年）＜交通法犯を除く＞

特別法犯少年とは・・・２０歳未満の少年で、特別法令に違反する行為をした者(交通法犯を除く)

不良行為少年とは・・・不良行為（罰則の適用はないが、喫煙等少年の健全育成上やめさせるべき行為）をしている者で、そのまま放置すると非行に進む危険性のある少年

地域ぐるみで子ども達を見守る

～鎌掛地区の取組み～

鎌掛地区では、毎日子ども達の登下校を見守っていただいています。鎌掛小学校が日野小学校に統合されたのが２００１年。当時、子ども達がバスに乗って日野小学校まで通う事に心配の声が寄せられました。そこで、PTA の皆さんにより、子ども達が安全に安心して通学できるよう登下校の見守り活動が行われるようになりました。その後、PTA だけでは大変なので、地域で見守りを行っていこうと自主防災会防犯見守り班を組織され、登下校の見守りを地域の皆さんで行うようになりました。朝は鎌掛の各区に集合し、そこから子ども達と見守りの人が一緒に歩いてバスが停まっている公民館まで歩きます。

公民館で子ども達はバスに乗り、見守りの方や当番の保護者の方に見送られながら日野小学校へと向かいます。

そして、帰りは老人会の皆さんが子どもたちの帰りを待ちます。見守り班班長の岡﨑正清さんは「毎日子ども達と一緒に歩く事は自分の健康のリズムでもあるし、何より子ども達の成長が見られていいですね」と話されていました。また、見守り班を退任された後も自主的に子どもの見守り活動に参加されている方もおられ、地域ぐるみで子ども達を見守っておられます。

＼勉強を教えてくれる／

大学生ボランティア募集

「勉強の仕方がわからない。授業についていくのが大変。でも高校には進学したい」と思っている中学３年生を応援するために、少年センターで毎週金曜日夕方６時から２時間学習する「子どもの学習支援事業IPPO（一歩）」を開催しています。中学生に寄り添って、話しながらともに学んでくれる大学生サポーターを募集しています。

問い合わせ先　電　話　５３−１３２５
E-mail　hino.t-syonen.c@rmc.ne.jp

ひとりで悩まないでまずは相談を!

〇電話相談　〇面接相談
〇相談時間：月～金　9:00～16:30
電　話　0748−53−1325
E-mail　hino.t-syonen.c@rmc.ne.jp
日野町少年センター（日野町勤労福祉会館　2階）

つ ぶ や き

補導委員活動の一環として中学校校門前で「朝のあいさつ運動」を毎週火曜日に行っています。２年前に始めたころは、声は少なかったのですが、粘り強くこちらからあいさつをすると返事が返ってくるようになり、最近ではほとんどの生徒さんから「おはようございます」の声を掛けてもらえるようになりました。お互いあいさつを交わすと１日が気持ちよく過ごせます。

私は幼稚園児の送迎バスに乗務しています。園児はバスに乗るときお家の方に「行ってきます」、バスのおじさんには「お願いします」、そして私も大きな声で「おはよう」とあいさつを交わします。お家の方との別れが嫌で泣いていた園児もいましたが、今では元気よく「行ってきます」と言ってバスに乗ってきてくれます。

あいさつは、人間同士の心の距離を縮め、親近感や連帯感をもつきっかけとなりとても大切な一言だと思います。子どもにとって家庭が最初の学校です。ぜひあいさつのできる家庭を築いてほしいと思います。

日野町少年補導委員　道津　豊吉